

令和6年(2024)5月教育委員会定例会 会議録

令和6年(2024)5月28日(火)午後2時00分、出雲市教育委員会定例会を出雲市役所3階庁議室に招集した。

(1) 会議に出席した者

教育長	杉谷 学
委員(教育長職務代理)	内藤祐馬
委員	高橋 詠
委員	川田量子
委員	奥 康人

(2) 欠席した者

なし

(3) 説明のため会議に出席した者

副教育長	金築健志
教育部次長(児童生徒支援課長)	山崎 創
教育部次長(学校教育課長)	矢田和則
教育政策課長	栗原真奈美
教育施設課長	古川 薫
学校給食課長	山内泰治
出雲科学館館長	鬼村修治
保育幼稚園課長	園山博之
学校教育課主査	岩崎慎一
学校教育課課長補佐	園山正樹
児童生徒支援課課長補佐	小林 剛

(4) 会議の書記

教育政策課主査	池尻精二
---------	------

(5) 傍聴者

1名

開会

(杉谷教育長)ただいまから、令和6年5月出雲市教育委員会定例会を開会します。本日の会議は、お手元に配付しております日程のとおりでございます。

1 教育長行政報告

(杉谷教育長)まず、「教育長行政報告」を行います。

(以下、報告項目のみ掲載)

① これまでの動向（令和 6 年 4 月 23 日以降）

R6. 4.23	島根県市町村教育長会議（～24 日、江津市）
R6. 4.25	定例記者会見
R6. 4.30	寄贈式（株式会社ウシオ、株式会社平岡物産）
R6. 5. 8	市議会全員協議会 市議会5月臨時会
R6. 5. 9	全国都市教育長協議会定期総会（～10 日、長崎市）
R6. 5.13	第1回社会教育委員会議
R6. 5.14	第1回教育政策審議会
R6. 5.15	校長当初面接（～30 日）
R6. 5.16	教育委員学校訪問（松江市立八束学園）
R6. 5.17	市行政改革推進本部会議
R6. 5.19	出雲市防災復興活動展・復興祈念コンサート（市民会館）
R6. 5.21	全国市町村教育委員会連合会定期総会（～22 日、東京）
R6. 5.24	小・中学校校長会
R6. 5.28	教育委員会5月定例会

② 今後の予定

R6. 5.29	第 1 回管内教育長会（出雲合庁）
R6. 5.31	トキによるまちづくり庁内推進本部会議、定例記者会見 出雲市 PTA 連合会委員総会（市民会館）
R6. 6. 3	第 2 回教育政策審議会 全国高校総体出雲市実行委員会設立総会
R6. 6. 4	ポイ捨て一掃大作戦 市同和教育啓発推進会議総会、第1回保幼小連携推進委員会
R6. 6. 6	第1回市いじめ問題対策連絡協議会、いじめ問題対策委員会
R6. 6. 7	市議会 6 月定例会開会、本会議、全員協議会
R6. 6.10	寄贈式（株式会社マルイ）
R6. 6.12	出雲地区租税教育推進協議会定期総会（出雲地方合庁）
R6. 6.14	市議会 6 月定例会一般質問
R6. 6.17	市議会 6 月定例会一般質問
R6. 6.18	市議会 6 月定例会一般質問
R6. 6.19	市議会 6 月定例会一般質問
R6. 6.20	市議会 6 月定例会予算特別委員会 出雲市幼稚園 PTA 連合会総会
R6. 6.24	市議会 6 月定例会文教厚生委員会
R6. 6.27	教育委員会6月定例会、第1回総合教育会議

2 会議録の承認

（杉谷教育長）続きまして、会議録の承認に入ります。前回 4 月定例会の会議録につきまして、何か意見等はありませんか。

（各委員）なし。

(杉谷教育長) 特にご意見等がありませんので、４月定例会の会議録については承認することといたします。署名を、会議終了後にお願いいたします。

３ 議事

(杉谷教育長) それでは、議事に入ります。まず、「議第１８号 学校医の解嘱及び委嘱について」、教育政策課 栗原課長に説明願います。

(栗原教育政策課長) (資料を用いて説明)

(杉谷教育長) さきほどの、説明に委員のみなさまから質疑がありましたらお願いいたします。

(各委員) なし。

(杉谷教育長) 特にないようですので、「議第１８号 学校医の解嘱及び委嘱について」を承認することについて、ご異議ありませんでしょうか。

(各委員) 異議なし。

(杉谷教育長) 異議なしと認めます。「議第１８号 学校医の解嘱及び委嘱について」は、承認いたします。続きまして「議第１９号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の辞任及び任命について」を、教育政策課 栗原課長に説明願います。

(栗原教育政策課長) (資料を用いて説明)

(杉谷教育長) 先ほどの説明につきまして、委員の皆様からご質問ありましたらお願いいたします。

(各委員) なし。

(杉谷教育長) 質疑ないようでございますが、「議第１９号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の辞任及び任命について」を承認することについて、ご異議ございませんか。

(各委員) 異議なし。

(杉谷教育長) 異議なしと認めます。「議第１９号 出雲市立学校における地域学校運営理事会理事の辞任及び任命について」を承認いたします。続いて、「議第２０号 出雲市教育支援委員会専門委員の解任について」を、児童生徒支援課 山崎次長に説明願います。

(山崎教育部次長) (資料を用いて説明)

(杉谷教育長)先ほどの説明につきまして、質疑ございましたらお願いいたします。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)特にないようでございますが、「議第２０号 出雲市教育支援委員会専門委員の解任について」を承認することについて、ご異議ございませんでしょうか。

(各委員)異議なし。

(杉谷教育長)ご異議ございませんので、「議第２０号 出雲市教育支援委員会専門委員の解任について」を承認いたします。続いて、「議第２１号 出雲市立幼稚園における幼稚園運営協議会委員の辞任及び任命について」を、保育幼稚園課 園山課長に説明願います。

(園山保育幼稚園課長)(資料を用いて説明)

(杉谷教育長)先ほどの説明に対して、質疑がありましたらお願いいたします。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)質疑なしでございますが、「議第２１号 出雲市立幼稚園における幼稚園運営協議会委員の辞任及び任命について」を承認することについて、ご異議ございませんか。

(各委員)異議なし。

(杉谷教育長)異議なしと認めます。「議第２１号 出雲市立幼稚園における幼稚園運営協議会委員の辞任及び任命について」を承認いたします。続きまして、「議第２２号 出雲市立図書館協議会委員の辞任及び任命について」を、出雲中央図書館 黒田館長に説明願います。

(黒田出雲中央図書館長)(資料を用いて説明)

(杉谷教育長)先ほどの説明に対しまして、質疑がありますでしょうか。

(各委員)なし。

(杉谷教育長)質疑ないようでございます。「議第２２号 出雲市立図書館協議会委員の辞任及び任命について」を承認することについて、ご異議ございませんか。

(各委員)異議なし。

(杉谷教育長)異議なしと認めます。「議第22号 出雲市立図書館協議会委員の辞任及び任命について」を承認いたします。以上で議事を終了いたします。

4 報告

(杉谷教育長)続いて報告事項に入ります。「報告(1) 学校給食における異物混入について」、学校給食課 山内課長から説明願います。

(山内学校給食課長)(資料を用いて説明)

(杉谷教育長)先ほどの説明、報告事項でございますが、委員のみなさまから質疑がありましたらお願いいたします。高橋委員。

(高橋委員)たしか3月にも異物混入があったと思います。そのときも気になっていたのですが、どこからどう混入したのか、わからないものでした。例えば、作っている何かから、そこが欠落して入ったということがわかれば、点検などもできると思います。原因が今のところ、わからない状態の中で、入っているということが、保護者としては、心配だと思います。これ以上、調べることができないということであれば、そこまでののですが、前回も金属探知機を2回通すということをおっしゃられたわけです。再び、起こってしまったというところが、もう少し、何か策があればと思います。これは、かなり大きいものですよね。今回は、口に入らなくて良かったのですが、なるべくこういったものが入らないようにして欲しいので、もう少しどこから入ったのかを調べるなどして欲しいです。そうすることで、保護者の目線からは安心ではないかと思います。

(杉谷教育長)山内課長。

(山内学校給食課長)今回は、おっしゃる通り異物が大きなものでした。食材に入っていたのであれば、金属探知機により発見できたのではないかと考えております。ただし、金属探知機も万能ではなく、食材が塩分や水分が多いものですと精度が悪くなるということもあります。金属探知機を通過する際も、短い角度で通過すると精度が悪くなるなどがあります。いろいろな事情がありますので、食材自体に混入していた可能性も全くないわけではありません。センターの中での混入ということであれば、何らかの調理器具、調理部品ではないかと考え、徹底的に確認したところです。調理器具につきましては、メーカーに問い合わせたところ、このような部品は使っていないという回答がありました。なかなか特定に至らなかったということです。引き続き、どの部品であるか、何の部品であるかは、調査していきたいと考えております。

(杉谷教育長)内藤委員。

(内藤委員) これは、センターで入っていないとしたら、運ばれるときに、蓋を開けられる可能性はあるのでしょうか。

(杉谷教育長) 山内課長。

(山内学校給食課長) 給食センターでは、おかかあえを調理する、和え物室があります。そこで食缶に移し、蓋をします。コンテナに移し、センターから配送車で配送します。学校においては、職員立会いの下、鍵のかかる部屋に移します。学校によっては、学年ごとに別の場所に移す場合もありますが、職員が立ち会って、施錠するということになります。施錠できない場所であれば、教員が立ち会ったままにするということをしております。センターを出てから、教室に行くまでは、蓋が開かない状況だと考えております。

(杉谷教育長) 内藤委員。

(内藤委員) どこを調べればよいのかということは、私もわかりませんが、こういった大きなものが入ることは、なかなかないと思いますので、気をつけてやっていってください。

(杉谷教育長) 混入していた金属について、断裂していた状況などどうですか。

(山内学校給食課長) 検査機関で検査しましたが、両端とも成型されたもので、断裂はしていませんでした。このままの形のものであろうということでした。

(杉谷教育長) 非常に大きなものというご指摘がありました。確かに 9 c m というものですので、通常であれば分かるものであります。調理室でもない可能性が高いし、使われている部品でない可能性も高い、本当に不可解であります。実際に盛り付けるときに発見したということです。中に入っていた状態であることも間違いがない。原因については、難しさがあるということです。そういう中で、再発防止策については、こういう形にしかできないところです。突き詰めていくことができないところです。そうは言っても、非常に不可思議だということころは、疑問としてあります。いかがでしょうか。

(各委員) なし。

(杉谷教育長) それでは、報告（１）は以上とさせていただいて次にまいります。「報告（２）第２期出雲市社会教育計画の策定について」、教育政策課 栗原課長から説明をお願いします。

(栗原教育政策課長) (資料を用いて説明)

(杉谷教育長) 先ほどの報告内容につきまして、ご質問がありましたら、お願いいたします。内藤委員。

(内藤委員) 市民一人一人が抱く前向きな思い（夢や希望）がとあるのですが、繋がりが見えてこないのですが、これが学びの好循環を生むという最終的なところが、夢や希望だと思うのですが、これを説明して欲しいです。夢や希望をどういうことを考えておられるのでしょうか。

(杉谷教育長) 竹田係長。

(竹田教育政策課係長) これは、出雲新話 2030 を受けておまして、そこには、出雲力で夢★未来へつなげ 誰もが笑顔になれるまちづくりということをイメージしております。出雲力で夢や希望を持ち活躍できるまちというのが、最初の項目にあります。課題はあるのですが、それぞれの夢、地域の夢に向かって行くところが大事ではないかというところがあります。学びの好循環ということについては、第 1 期のときから「学びの循環」と言う視点を社会教育の視点を持って、繋がりづくり、まちづくりをしていこうと考えておりました。この部分については、好循環とさせていただきました。好循環を生むために、単に集うとか、つながるとかということではなくて、それ自体も大事な目的ではあるのですが、そういったものが、さらに広がっていったり、高まっていったり、学んだことをいかしたり、あるいは地域づくりにいかしたりして、高まっていく。その先に、夢や希望、喜び、やりがいのような有用感に関わってくるのではないかとということで設定させていただきました。

(杉谷教育長) 内藤委員。

(内藤委員) 夢や希望ということが具体的に見えてこないのですが、例えば、市民一人一人が抱く前向きな思いというのが、具体的なものがないのでしょうか。

(杉谷教育長) 竹田係長。

(竹田教育政策課係長) 十分にその部分について、書き込んでないということがあります。具体的な回答が難しいところですが、個人の思いということもありますし、地域の願いということもあります。また、自分自身が高まっていくということもありますし、地域がつながりを復活させて、よりよい地域、住みやすい地域になっていくということもあります。そういった願いということ、大きく夢や希望と、前向きということがどうかと言う点もありますが、そのさきにあるのが夢や希望という表現を使っていると解釈しています。

(杉谷教育長) 説明になっていますでしょうか。

(内藤委員) この部分は、ぼかしておきたいところなのではないでしょうか。それとも、

はっきりとした明確なものがあって、こういうことを書いてあるのでしょうか。ぼかしたいイメージで書かれてあるのはいいのですが、この書き方をすると詳しいものがないと、相手に通じないような気がするのですが。具体的に言うと、一人一人に夢や希望を聞いたときには、子どもにきくと、野球選手になりたいとか、いろいろあります。そうであれば、明確に分かりやすいのですが、これでは、ぼやけていて、わからないので、その説明ができればよいと思うのです。この場では、深くはききませんが、聞かれたときに、答えられるようにしておいてほしいです。意見です。

(杉谷教育長) 奥委員。

(奥委員) 18ページの上のところに3課連携会議と、関係課連携会議とありますが、その中では進捗の共有であったりしますが、具体的にはどのような形で進められますか。

(杉谷教育長) 竹田係長

(竹田教育政策課係長) 3課連携会議については、これまでも定期的に行ってきた会議です。例えば、コミュニティセンターの職員の研修のことであったり、情報を共有したり、研修の機会を情報提供したりして、常に連携をとっております。関係課が12課あります。前回の中見直しで課題となったのが、3課連携会議だけでは不十分だということから、今回新たにできたものです。回数は、あまりできませんが、年に数回会議をして、それぞれの施策の活動状況、事業評価をしながら、今後の方向性を検討していくこととしています。3課連携会議よりも拡大した会議になるということです。

(杉谷教育長) 奥委員。

(奥委員) それらの会議の進捗報告を受けて、社会教育委員会が助言することになるのでしょうか。

(竹田教育政策課係長) そのとおりです。

(杉谷教育長) 奥委員。

(奥委員) 社会教育計画を社会教育委員会が作成をする、あるいは見直しをするということになりますでしょうか。

(竹田教育政策課係長) そのとおりです。

(杉谷教育長) 社会教育委員の役割ということを話しておいた方が、今の質問に対しては、答えることになるのかと。社会教育委員の職務を。

(竹田教育政策課係長) 社会教育委員については、令和４年に条例設置してあります。主に、計画の立案、見直しということ、広く社会教育行政の評価、調査研究社会教育に関する研修、研究調査、情報交換及び啓発に関すること、教育委員会からの諮問に対する答申、市の社会教育行政に対する提言、大きくこれらのことを内容としています。

(杉谷教育長) 奥委員。

(奥委員) ここに書いてあるとおりですね。

(竹田教育政策課係長) はい。そのとおりです。

(杉谷教育長) 調査研究をしていただく、諮問に対しては、答申いただく機関となっています。今回、計画の策定について、審議していただいているというところですよ。奥委員

(奥委員) 今の案は、社会教育委員会議で、既に検討されたものでしょうか。

(杉谷教育長) 竹田係長。

(竹田教育政策課係長) 昨年度から検討いただいていたものです。

(奥委員) わかりました。

(杉谷教育長) よろしいですか。

(各委員) なし。

(杉谷教育長) 十分にお答えできなかった部分もありますが、成案とするまでに整理をしていきたいと思えます。次に、「報告(3) 学校訪問について」、教育政策課 栗原課長から説明をお願いします。

(栗原教育政策課長) (資料を用いて説明)

(杉谷教育長) 具体的には、佐田自治協会からの要望と言いますか、考え方の中に義務教育学校というものも検討してもらいたいというものがありました。私どもも様々な情報を収集して、と考えている中で、委員のみなさまにも、実際に、県内には松江市にしかありませんので、先進校ということで、見ていただいたところですよ。所感としてということでもよろしいですし、仮に義務教育学校とするためには、これが必要だとか、必須だとか、こういう懸念があるとか、さまざまに感じられたことを順番に、お話いただきたいです。それでは、内藤委員から順番にお願いいたします。

(内藤委員) 私は、行かせていただいて、いい面も悪い面もあったなあと思いました。まず、いい面は、先生たちにゆとりができるというところが非常に、この制度を使ってやるといいのかなと思いました。先生たちが、この先生はこの時間にと言うことで、空き時間ができるというのは、働き方改革にも必ず適したのになってくると思います。やっていかれると、非常に先生たちにゆとりができる。ということは、子どもたちにとってもいいことなのかなと感じました。校舎に関しては、これをやることによって体育館が2つあるということが出てきたのですが、小学生の人数にしてもそうですし、中学生の人数によって大きさは変わってくると思うので、僕は、そういったことは大きな問題にはならないのだろうなと。やはり一貫にすることの良さをもっとアピールしていただいて、この体育館を2つ作ることは大して問題にならないというような方向性をもって行って欲しいと思いました。ただ、1つ懸念があるとすれば、いじめ・不登校、ここがうまくいかなければ、これを認めるわけにはいかないのではないのかなと思います。9年間、そこに縛られるということは、子どもにとって、苦痛でしかないことです。引っ越せばいいと言ったときに、そうなのでしょうけれど、その地域から離れる子どものことを思うと、さすがにそれを無理強いできないですし、いわゆる子どもありきで、こういうことを推し進めて、考えていていただきたいなと思いました。全体的には、非常にいい取組みをされていて、これを佐田でやられることは、非常にいいことだと感じました。

(杉谷教育長) 次に、高橋委員をお願いします。

(高橋委員) いいことも悪いことも内藤委員が全部言うてくださいました。佐田地域でこうした取組みをしようと考えたときに、佐田の良さということを目の前に出して、他の地域からでも、あそこの学校なら行きたいなという特徴があるものにしなければ、あまり意味がないという気がします。小さい学校ですと今でも1クラスしかないみたいな学校は、出雲市の中にもあります。その中で、中学生までが一貫しているということが、また、ちょっと違うところです。小さい学校ですと、もう1年生を6年生が本当によく面倒見て育ててくれるっていう形は、自分の子どもたちも統合した学校にいたので、小さい学校ですと、とにかく6年生が1年生など下の学年を育てていく。そういったものが中学校3年生の皆さんたちが、入学してきた1年生を見るというのはすごくいい環境でしたし、社会に出てからもすごく役立つことになってくるのではないかと思います。やはり、やさしい気持ちの子が多くなってくるという印象があって、子どもたちもそんな感じに思いました。学校の作りも八束学園は、すごく、明るくて、何かすごくよかったなと、ほのぼのとした気持ちになりました。内藤委員が先ほど言われたように、ここしかないとなったときに、聞きましたところ、やはり、いじめとか不登校の子たちは、何人かいますというお話でした。そういう子たちにとってはちょっと厳しい状態、状況になるのではないかと思います。そういうところをクリアしていけばいいですし、とにかく佐田地域で、ここに行くと子どもがのびのび育つなと。そういった環境ができると、作ってよかったと思える学校になるのではないかと私は思いました。

(杉谷教育長)次に、川田委員お願いします。

(川田委員)非常に興味深く、視察させていただきました。特に、先生方の雰囲気というか、どの先生もそうだったのでしょうけれど、すごく子どもたちのために頑張ってるような様子があり、明るい感じの印象を受けました。校舎の仕様もすごく工夫されていて、被服室と調理室が一緒になっていて、何かうまくスペースを利用されていていいなと思ったりしました。工夫次第でいろんなことができるのかなと思ったりしました。ただ、本当に9年間という長い期間ですから、いい面としては、長い目で子どもから中学3年生まで、ずっと見てあげられるというのが、いいところでもあれば、ちょっと不適應な子たちには厳しいのかなと私も同じ印象を受けました。小さなコミュニティだと、小・中ともメンバーは一緒なので、小・中学校分かれていても、義務教育学校でも同じことなのかなと思ってみましたが、課題は、一緒なのかなという気がしています。先ほど高橋委員がおっしゃったのですが、地域外の子たちが行きたいというふうな魅力的な学校になるという可能性もすごく感じて、遠いけれども、小・中ともに一貫して行きたいみたいな学校になると、何か違う可能性を含んでいるなという気がしました。

(杉谷教育長)次に、奥委員お願いします。

(奥委員)視察は、本当に見るものが初めてということで驚いていました。先ほど、内藤委員さん、高橋委員さん、川田委員さん、皆さんおっしゃっておられましたけども、今後、佐田でというふうなことで考えていかれるのではなくて、全体として、こういうことをやっていくのだよということを、全市に広げていかないと、なかなか理解を得られないです。当然、振興計画の中でもあります。地域と家庭と学校とで、ともに育てていくのだと。一市民としてどうしても、この出雲市の教育というものには、営業力がないと思っています。地元に対して、こういうことをやるのだよということを、みんなにどんどんPRして、お互いに考えていって、先ほどの話でもありましたけども、ここに行ってみたいという学校を作ろうという、そういった雰囲気を醸成していけるような体制を整えていただければいいなというふうなことを感じておりました。

(杉谷教育長)今回は、地元から提案もあっている中で、我々も情報収集であり、実際に現場を見て感じてというところでもあります。その地域だけにとどまっていいいのかということも、魅力ある学校で子どもが行き来するという見方も片方にあるかもしれませんが、市全体の教育のあり方、学校のあり方ということについてどう考えるかっていう大きなご指摘だったかなというふうに思っています。どういう学校づくりをするかということで、現在の学校があって将来それをどうするかというところ。統合という中であって、佐田地域からの要望ではありますが、そういうことは抜きにして、出雲市としての学校教育、9年間の義務教育をどうしていくのかというところのビジョンを持つべきだというご指摘は、もっともだと思っています。今回は、要望に対して我々が短

期間で検討していく中で1つの材料としているのですけれども、もっと長い目での計画というのですか、ビジョンを作っていかなければならないと、先ほどのご指摘、本当にそうだなと思って受け止めさせていただきました。今回、比較的小規模の義務教育学校、もう1つ松江市には大学の附属はあるんですけれども、玉湯学園という、規模的にはかなり大きな学校もあって、そこがどうなのかなというのも見つめる必要があるかなと思っています。今後もいろんな現場を見させていただいて、材料をしっかりと集めて検討させてもらいたいと思っています。委員の皆様、非常にメリット、デメリットみたいなところをしっかりとご指摘いただいて、我々もそうしたところをしっかりと念頭に置きながら検討を進めていこうと思っています。次に、「報告（４）教育委員会の後援について」、教育政策課 栗原課長から説明をお願いします。

(栗原教育政策課長) (資料を用いて説明)

(杉谷教育長) 先ほどの報告事項について質問ございませんか。

(各委員) なし。

(杉谷教育長) 質疑がないようですので、以上で報告事項を終わります。

５ 教育長職務代理者の指名について

(杉谷教育長) 次に「教育長職務代理者の指名について」でございます。行政報告の中でも、触れさせていただきましたが、これまで教育長職務代理者を務めていただいております内藤委員が6月9日をもって教育委員会委員を退任されます。そのため、あらかじめ教育長職務代理者を指名しておく必要があります。6月10日からは、高橋委員を教育長職務代理者として指名させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。それではここで、内藤委員の退任に伴いまして一言ご挨拶させていただきます。内藤委員には4年任期ということで、委員を務めていただいて、6月9日が最終ということになるわけです。実は、この教育委員を受けていただく前にも、市の生涯学習委員でありますとか、教育政策審議会の委員をお務めいただいて、市の生涯学習についてご意見いただいたり、あるいは教育政策審議会では、点検評価等もしていただいたりしながら、出雲市の教育について、長い間、関わっていただいて、今回、教育委員会委員という形で、4年間お務めいただいたと思っています。保護者の立場として、市内で会社を経営されるという、教育にずっと携わってきた者とは違う視点で見ていただいて、様々なご意見をいただいたと、私としては大変感謝をしております。視点が、本当に鋭いといいますか、先ほど言いました、違う角度からの見方によって、新たな課題が掘り起こされたり、あるいは逆に良さが引き出されたりというふうなことが、これまでも何度かございました。本当に委員の存在が大きかったなというふうに感謝しております。教育委員会委員としては退任ということになりますけれども、先ほど申しました保護者としてあるいは地域にお住まいの市民の一人として、出雲市の教育については引き続き関心を持っていただいて、また、いろいろとご意見いただければ幸いと

いうふうに思っております。会社経営の傍らで、こうして会議に出て行っていて、大変お忙しい身であったと思いますし、これからもそうだと思いますが、健康には十分留意され、ご活躍いただけるというふうに思っております。本当に5年間お世話になりました。ありがとうございました。

(杉谷教育長) それでは、退任が6月9日ですけれども、今日が皆様にご挨拶していただける、機会の最後でありますので、内藤委員から一言ごあいさついただきますと思います。

(内藤委員) あいさつ

6 次期教育委員会の開催時期

(杉谷教育長) 委員のみなさま、あるいは事務局の方から何かありましたらお願いいたします。

(各委員) なし。

(杉谷教育長) 次期、教育委員会の開催について、お伝えいたします。6月27日木曜日 午後2時から、庁議室で開催したいと思います。よろしくお願いいたします。では、以上をもちまして令和6年5月、出雲市教育委員会定例会を閉会といたします。

(栗原教育政策課長) 皆様、ご起立願います。一同 礼。

【閉会】(午後3時13分)